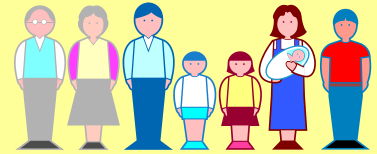


美唄市男女共同参画推進協議会 会報

第2号

Duo デュオ



発行:美唄市男女共同参画推進協議会事務局(美唄市役所企画課内)
〒072-8660 美唄市西3条南1丁目1番1号 TEL01266-2-3137 FAX 01266-2-1088
e-mail kikaku@city.bibai.lg.jp

*「デュオ」とは、イタリア語で「二重唱」、「二重奏」を意味する言葉です。

父さんも頑張ってるよ！

～おやじグルメ倶楽部（おやじ健康塾）～

「料理は女の仕事」「男は台所に立つものではない」などと言われていた時代は、今やもう過ぎ去りつつあります。私たちのまちでもそれを感じさせる取り組みや活動が着実に進んでいます。

「おやじグルメ倶楽部」という男の食を通じた集まりがあるのをご存知でしょうか？これは、保健センターの事業のひとつで、月1回保健センターに集まり調理実習や食の勉強をし、食や健康に対する理解を広めていこうというものです。参加者は全員男性。定員は12名で、60代～70代の退職したお父さん世代が多いようです。

また、その「卒業生」も同倶楽部終了後に「OB会」を結成し、同じように保健センターに2ヶ月に1回集まり、調理を楽しんだり、食と健康に関する学習を更に深めたりしています。OB会には、毎年「卒業生」が加わり、仲間が増えています。

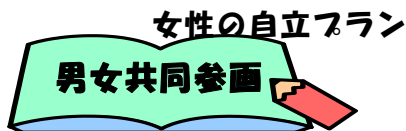
同倶楽部OBの滝田忠さん（65歳、1期生）は、「かみさんに今は作ってもらってんだけど、将来1人になってしまった時のことを考えて・・・」と参加の動機を話してくれました。それまではほとんど台所にたつこともなかったそうです。おやじグルメ倶楽部に関わるようになってから「栄養のバランスや健康について考えたり、意識するようになった。」とのこと。普段食事の支度をしない男性もこのような集まりに参加することで、意識の変化が芽生えてきているようです。（「おやじグルメ倶楽部」は、本年度から健康に対する理解をさらに深めてもらうことを目的に、これまでの調理実習や食と健康に関する学習会のほかに運動などのメニューを加え、名称を「おやじ健康塾」と改めて行うことになっています。「おやじ健康塾」に関するお問い合わせは保健センター（電話2-1173）までどうぞ。）

（高島）



「女性の自立プラン」という言葉に接したのは、今から二十年程前のことでした。専業主婦として暮らしていましたが、社会との関わり合いの中で女性団体に加入した頃から、「女性の自立プラン」について研修し、「男女共同参画」へと関心を深めてきました。

多くの男性の方々の考えを聞き、知識を深め、男性の役割を理解するなかで、女性の立場、考え方を男性に伝えることができました。



男女が共に意見を交換し、理解し合い、助け合うことが、女性の自立、共同参画への第一歩ではないでしょうか。

職場で共に働き、家庭では共に子育てに励む若い男性と女性が、「男女共同参画」に関心を持ち、より豊かなものとして、次の世代へつなげていくことを願っています。

夫婦別姓, やってみれば.....

(会員：市内在住)



私は事実婚、つまり婚姻届を出さない「結婚」をして7年目になります。子供の頃から、女性ばかりが結婚して改姓することを「吸収合併のようで屈辱的だ」「それなら結婚したくない」と感じてきました。夫婦別姓というやり方があると知り、目からウロコ。「こういう方法なら結婚してもいいな」と思い、実行に移しました。



子供は事実婚の場合母方の籍に入ります。別姓反対論者が「別姓は家族を壊す」としばしば言いますが、夫は自分と姓の違う息子のことをとても可愛がっています。同姓か別姓かという問題と家族の絆とは関係ないと私は思っています。

息子が大きくなったら「どうしてぼくのうちはお父さんとお母さんの姓が違うの？」と聞かれると思います。胸を張って説明できる母親でありたいです。

身近な男女共同参画についての情報や「Duo」の感想などを事務局までお寄せください。お待ちしております。

* 事務局：〒072-8660 美唄市西3条南1丁目1番1号 美唄市役所企画課内 (担当：森川)

TEL 01266-2-3137 FAX 01266-2-1088 e-mail kikaku@city.bibai.lg.jp



私は嫁いで25年農業をしています。男も女も協同で農作業をしているからといって、はたして共同参画なのだろうか？そんな疑問があります。農業委員会や農協組合員、農協の理事などに女性をといた話もありますが、今はまだ理解を得られないと考えます。女性の能力に差があるとは思いませんが、女性は組織的なことが得意ではないし、人脈もありません。ですから組織に入ってメリットがないと、家庭の方を優先させてしまいます。

それほど私たちにとって家庭が大切なのです。

私たちは平成13年から農村女性ネットワーク“夢の美（ゆめのみ）”を作って活動をしています。自分たちで仲間作りをしながら、農業状況を客観的に考えられるように工夫しています。徐々にではありますが、女性同士で組織を学習したり、様々な体験をとおして農業の幅を広げていこうと思っています。

まずは、農村の男性達に家事参加を進めて家庭内の男女共同参画を目指したいと思います。



男女平等・男女共同参画ニュース短信

父子家庭に朗報

ひとり親家庭等医療費助成制度(旧母子家庭等医療費助成制度)

これまで、20歳未満の子供を扶養している母子家庭等（所得制限あり）のみを対象として、医療費の一部が助成の対象となっていました。このたび、男女平等・共同参画の観点に立って、父子家庭も同様に対象（平成16年10月診療分から）となり、制度の名称も「ひとり親家庭等医療費助成制度」に改められました。

これにより、20歳未満の子供を扶養している母子・父子家庭等について、所得などの基準に沿って制度が適用されることになりました。

*** この制度の問い合わせ先**
美唄市役所市民課保険年金係
(TEL2-3131 内線 2215))

美唄市役所の女性相談窓口について

市役所では夫からの暴力で困っている方などの相談を受ける窓口を設けています。このような方については「配偶者からの暴力の防止および被害者の保護に関する法律」により、専門の相談や必要に応じて一時保護をする施設の入所、夫の接近禁止などの申し立て制度ができています。この法律についてのお問い合わせや相談がありましたら市役所女性相談窓口までお気軽にご連絡ください。

* 女性相談窓口 美唄市役所企画課 2～3 1 3 7 (直通) (受付・・・月～金、8時45分～17時15分)

一緒に学び考えよう ～ペア教室～

美唄市では「ママパパマタニティクラブ」「ペア教室」などの妊婦とそのパートナーや家族を対象とした事業が行われています。これは妊娠・出産・育児について共に考えたり、妊娠中を一緒に安全・快適に過ごせるよう行われているものです。

このうち、ペア教室では、毎回、5組～10組程度の夫婦が集まり、父親・母親の役割、家族をもつということなどについて共に学んでいます。ずっとおなかに胎児を育ててきた母親と生まれて急にそれを実感する父親との溝を埋める役割もあるようで、この教室で学んだお父さんたちからは「これからはもっとおなかに声をかけようと思う。」「おかげで家事を手伝うようになった。」などの声があり、少しずつ理解が広がっているようです。

生まれてくる子どもに、「みんながあなたのことを待ってたんだよ、それだけ大切な存在なんだよ」ということを伝えていく大事さもあるとのこと。昨今、児童虐待や少年犯罪などが社会問題として取沙汰されていますが、命の大切さをまずこれから親となる父親、母親が共に理解しあうところから始め、それを周りの人たちに、地域に、次世代に伝えていけるようにしたいものです。

「ペア教室」に関するお問い合わせは、保健センター(電話2-1173)までどうぞ。
(高島)



「美唄市男女共同参画推進協議会」の会員募集中!

会では、新規会員を募集しております。男女共同参画社会づくりに向けて、学習し、身近に取り組める家庭や職場・地域で実践することを目的としている協議会に興味のある方はご連絡ください。

* 問合せ先及び入会申し込み先

事務局(美唄市役所企画課内) TEL 01266-2-3131 (内線2113)

びばい市民福祉講演会開催のお知らせ(入場:無料)

主催:社会福祉協議会

内容:「DV(ドメスティックバイオレンス)と児童虐待問題の状況」

とき:H16年9月18日(土) 13:30～15:30

ところ:総合福祉センター 研修室

講師:NPO法人 女のスペース・おん 代表理事 近藤恵子 氏

問合せ:社会福祉協議会 TEL 2-0770

会員の皆様へ

【会費の振込口座番号のお知らせ】

会の預金口座ができましたのでお知らせします。

(会費の納入の際にご利用ください。)

◎口座番号:北洋銀行美唄支店

060(店番号)-3563194(口座番号)

◎口座名義

美唄市男女共同参画推進協議会 会計 森川 治

* 年会費1,000円

* 直接、事務局(美唄市役所企画課)に来て納付することもできます。

編集後記

夏まっ盛り。水銀柱がぐんぐん上昇致します。新年度も4ヶ月が過ぎ、会報2号がようやく出来上がりました。寄稿くださいました皆さま方に、心からお礼申し上げます。今後も試行錯誤を繰り返しながらの会報づくりになりますが、より充実したものにしたいと考えておりますので、お知恵の拝借とご協力をよろしくお願い致します。

「男女共同参画社会」の取り組みも、地道な一歩一歩が大事なのかもしれません。
(後藤 和)